

JIL 常任委員会 10 月 2 日(初日)

JIL の方針に関する意見抜粋版

★JIL の目指すもの(提出資料版)

●私たちは、障害のある人もない人も、誰もが分け隔てられることなく、ともに育ち、学び、働き、遊ぶなど、ともに生きることがあたり前の社会をつくることを目指します。

(目指すもの①)

●私たちは、どのような障害があっても、いっしょに暮らす人がいてもいなくても、住む地域のちがいによって差が出ることなく、1 日 24 時間等、必要な人には必要なだけの介助が保障される制度の確立を目指します。(目指すもの②)

★JIL 方針に関するキーワード

インクルーシブ

- ・誰もが取りこぼしの無いよう(排除されない)にする社会。(インクルーシブ)
- ・誰もとりのこされない社会。
- ・インクルーシブな社会。
- ・健常者も障害者も交じり合う社会。
- ・政策とか作成時に排除されないのが一般的になる社会。(意識せずに排除される)
- ・同じ経験ができる社会。

介助の保障

- ・いつでもどこでも必要な介助が得られる社会。

地域で当たり前で暮らせる

- ・いろいろな人がいてあたりの社会。
- ・障害者がみえる社会。
- ・障害の無い人も当たり前で暮らせる社会。
- ・人としてあたりの暮らしができる社会。
- ・当たり前で(障害があっても)地域で暮らせる社会。
- ・どんなシチュエーションにも障害者が存在している社会。
- ・誰もが安心して地域で暮らせる社会。
- ・障害の重さに関係なく暮らせる社会。
- ・どんな障害が重くても地域で当たり前で暮らせる社会。
- ・施設と在宅の差。出たくない訳ではなくて、出られない。住む場所を決め付けられない社会。
- ・障害者がいけない場所が無い社会。

- ・入所施設がない社会。

#### 対等な関係

- ・みんなが認め合える社会。
- ・対等な関係。
- ・対等な関係を築ける社会。

#### 抑圧・差別のない社会。

- ・差別の無い社会。
- ・抑圧のない社会。
- ・人として当たり前の権利が保障される社会。
- ・障害者の権利が認められる社会。
- ・私たちは戦争をしない社会を目指す(極端に言う)。
- ・人間が誇りをもって生きていける社会。

#### 自分らしく

- ・みんなが笑える社会。
- ・どうしようもないやつらが輝ける社会。
- ・主体性が尊重される社会。
- ・社会的に孤立しがちな重度障害者が IL 運動に出会って元気になる社会。
- ・障害者が自分らしく生きられる社会。
- ・喜怒哀楽が実感できる社会。

#### ★提出された意見

##### ▲24 時間介助保障に関する文言について

- ・「介助が保障されることによって」という文言があれば、「自分らしく」という文言はいれる必要がないと思う。なぜならば、365 日 24 時間の介助保障があつてこそ、自分らしい生活を送ることができるから。
- ・目指すものは大きく一つ。「共に育ち、学び」に加えて「共に地域で暮らしていく」というワードが入るのがいい。そうすれば 24 時間介助のことも含まれると思う。
- ・24 時間保障が前面に出すぎると、多様性や多分野の人を巻き込んでいくということに弊害がでる恐れがある。伝え方を考えたい。
- ・全ての人に 24 時間の介助保障が必要かということそうではないから、「必要なひとに必要なだけの介助保障を」という表現がいいかと考えている。
- ・24 時間保障を入れないと、地域によっては 24 時間獲得のために動かないところが出てくるなど差がでる可能性がある。しかし(全都道府県で 24 時間保障が行き届い

たということを踏まえて)、次の段階として「必要な人に必要なだけ」という文言がふさわしいかと思う。

- ・知的、精神障害者を巻き込んでいくビジョンの中で、身体 の 24 時間を強く押し出すのは不利益なのではないか。
- ・「一緒に暮らす人がいてもいなくても、地域の違いによって差が出るのがなく」という文言は、介助保障確立の妨げを引き起こしている今日的な事情を鑑みると、とても大切な一文だと考える。
- ・DPI と JIL の役割分担もあるが、JIL は運動体と事業体が両方あるところなので、ずっとやってきた介助保障に関しては文章をそのまま残していきたいです。
- ・JIL はこういう社会を作りたい、というものを基本にして、一言で「こんな社会！」のようなキャッチフレーズの方がわかりやすいかもしれない。
- ・介助保障に関しては知的も精神もこれからもっと地域に出るために使っていかなければならないものだと思う。だから、介助保障に関する文言は敢えて入れていきたい。
- ・24 時間介助保障を求めるっていうことをきちんと書きつつ、その上で障害の程度に関わらず必要なだけの介助を求めますということをきちんと書きたい。
- ・軽いかもしれないが「必要なサービスを受けながら…」みたいなことを表現したい。

#### ▲ことばづかい、文中での表現や構成について

- ・「自分らしく」ということばをわざわざ入れなくても、「共に生きることが当たり前の社会」という中に全部含まれるから、入れる必要は無い。
- ・「インクルーシブ」ということばは、内輪ではわかりやすいけれど一般の人に出す上でどこまで伝わるのかわからない部分がある。
- ・「インクルーシブ」というのは交じり合うことですよ、という説明を入れればわかりやすくなると思う。
- ・クロスディスアビリティを目指す上で、難しいカタカナなどは使わない方がいい。
- ・何故介助保障が必要なのかをはっきりさせておく必要がある。障害者の自己実現には介助保障が必ず必要だということを明記する。
- ・「私たちが思う社会はこうですよ」ということをはっきり表しておかないといけない。
- ・JIL はこういう社会を作りたい、というものを基本にして、一言で「こんな社会！」のようなキャッチフレーズの方がわかりやすいかもしれない。
- ・軽いかもしれないが「必要なサービスを受けながら…」みたいなことを表現したい。
- ・「目指すもの」は一個がいい。
- ・(目指すもの①)の文章で、JIL の目指すものは十分網羅している。(目指すもの②)は活動方針に入っているから必要ない。